

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472000601	事業の開始年月日	平成14年11月1日	
		指定年月日	平成14年11月1日	
法人名	有限会社 共営			
事業所名	グループホームMOMO			
所在地	(〒254-0076) 神奈川県平塚市新町9-7			
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	令和6年1月30日	評価結果 市町村受理日	令和6年5月7日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナの感染症が5類、ホームでのか、き、く、け、この法則の存続（可愛らしさ、きれいに、工夫 健康 恋）介護の現場のパワーアップに力を注ぎ利用者様と共に充実感を目指した生活をしていくことに努力をする。また、災害時ご家族様に施設での状況をお知らせすることができるように災害伝言ダイヤルを活用し月2度の無料時に「MOMO皆様は、元気です。」と伝えている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年3月3日	評価機関 評価決定日	令和6年5月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR「平塚」駅北口よりバスに10分ほど乗車し、バス停「中原東」の目の前にある利便性のあるグループホームです。

<優れている点>

コロナ禍前のような充実した行事を再開することは感染症を懸念し難しい状況にありますが、利用者が楽しく生活が出来る事は何かを念頭に置き、支援に努めています。なかでも、手作りの食事を毎日提供し、生活の大きな楽しみと生きる活力としています。食事の買い出しに利用者が一緒に行った際には、荷物を持ってもらうなどもしています。食事は美味しく食べて貰うものとし、味付けのみならず、視覚からの情報である見た目も重視し、利用者が自ら「食べたい」と思える料理を心掛けています。残食の多い薄味をやめて、皆が思う美味しい食事を考え、好きな物を好きなだけ食べるバイキング形式や、ホットプレートを使用した焼き肉など、職員の意見を反映し「食」を楽しめる支援を行っています。必ず職員一人は検食し、味付けなどの確認もしています。

<工夫点>

家族から「災害時が心配」との意見の中で、家族からの提案で、災害伝言ダイヤル（災害時の通信のつながりにくい状況で使用できる声の伝言板）を実施しています。毎月1日と15日を安否を知らせる体験利用日とし、「MOMOの皆さんは元気です」などの声による伝言を発信し、家族は伝言ダイヤルで確認することができます。平時からできる災害の活動を継続しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームMOMO
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	掲示を常に意識するよう心がけている。自然に述べるができるように努力している。	開設時に理念を作成しています。また、事業所には法則があり、可愛らしさ、きれいに、工夫、など5つをあげて支援に努めています。利用者いつまでも可愛くいて欲しいと願い、理美容後には「とても似合っていますよ」などのさりげない声掛けも行っていきます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	入居者と職員が日常的に地域の人と交流することを通じて地域の人に認知症に関する理解が広がるようにしている。自治会にも加入しておりお祭り等参加への声掛けもある。	自治会の芋ほりやミカン狩りの誘いを受けています。開設当初から大事にしている地域との繋がりの中、事業所行事開催時にはお赤飯の差し入れやひな祭りには桃の花を届けてくれる人もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣住民、家族等が入居者の生活の広がりや充実を図ることを支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度、自治会長・包括支援センター・民生委員・家族に連絡し積極的に行っている。	地域包括支援センター職員や、民生委員、利用者家族、友人などの参加を得ています。地域包括支援センター職員からは、利用者の名前を呼ぶ時の「ちゃん」付けの指摘や、運営推進会議活動報告書及び議事録の様式や進め方の助言を受けています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	入居者や家族から苦情が寄せられた場合には速やかに対策案を具体的に伝えている。	松ヶ丘地区小地域ケア会議に参加し、市役所防災対策課の災害時避難所運営（HGU）を学んでいます。事業所ごとの災害時対応や、地域の受け入れの可否などの話し合いもしています。平塚市グループホーム連絡会に加入しています。横繋がりを持つためにも今後は会への参加日を増やす予定です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	入居者の自由な暮らしを支え心理的な圧迫もたらさないように根拠を明白にして理由を家族にはなしている。	月に1回開催のミーティングの中で身体拘束適正化委員会を行っています。施設長、管理者、日勤の職員などで話し合いをしています。	運営基準で定められている、身体拘束排除に関する研修を全職員が早急に受講し、身体拘束がもたらす弊害を学び、支援につなげることを期待します。身体拘束について常に代替的な方法など、三原則について全職員で話し合う事を期待します。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入居者の見守りやすい場所において一人ひとりの位置と様子を把握している。	管理者は、虐待は働く人の環境により起こると認識しています。業務が忙しく余裕がない所から生まれてくる虐待を防止するために、人員3名を確保し職員の業務軽減に努めています。	令和6年度から義務化になる虐待を検討する委員会の設置及び研修を行うことを期待します。何が虐待にあたるのか職員全員で話し合うことを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居対象者であるかどうか十分に検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者の権利、義務を利用案内時の説明文書に分かりやすく示し説明し同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	推進会議での意見交換、方針を具体化している。	家族の面会時や、体調変化があった時、備品補充のお願いの電話連絡時などに聞いています。運営推進会議の中で「災害時が心配」との意見から、災害時の通信がつながりにくい状況でも使用できる声の伝言板「災害伝言ダイヤル」の活用を提案してもらった事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的に話す機会を設けている。	毎朝行う申し送りのケアカンファレンス時に職員は自主的に提案しています。利用者の心理面にも着目し、放尿があった利用者がトイレ排泄できた際には「みんなで褒めて下さい」「散髪後髪型を気にされているので褒めてあげてください」など即時反映ができるようにしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与の見直し（処遇改善）心のケアに目を向けて働くことに向上心が持てるように言葉かけをしている。	職員が「和気あいあい」と家族の様に隠し事がない環境を整えたいと考えて実行しています。職員全員が同じ意識のもと利用者が混乱しない支援になるように「皆で一緒に事をしよう」と職員に伝えています。	統一ケアに向けて、正職員だけではなく、夜勤専従者も含めた全職員で話し合い、意見が言い合える環境を期待します。
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入居者の状態に応じた職員の確保や生活の流れを支援するためにこれに即した職員のローテーションを組んでいます。	無資格者の職員の認知症基礎研修の受講は終了しています。	運営基準で定められている認知症対応型共同生活介護事業所における法定研修を早急に受講することを期待します。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	日頃から関係を深める働き掛けを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者が移り住むことへのダメージ（環境の変化）を配慮し家族との十分な情報交換をして本人が安心を確保するために関係作りに務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者や家族に十分な説明を行なった上で納得の支援		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活の広がりや充実を図る働きかけ		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との交流が図られるように様々な機会を提供している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日常的な活動の支援	家族に会った時の利用者の心身や、表情が生き生きとすることを認識しています。利用者と家族の関係継続が重要と捉え、家族との面会や外出、外泊を周知しています。家族からの電話や手紙の取り継ぎもしています。利用者が「ありがとう」と手紙の返事を書けるようにサポートした事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う人同士の関係を重視し支えあえるような支援を行うなっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	縁を断ち切らないように関係を継続している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	馴染みの季節のならわし等を入居者に主体的になってもらいながら家庭的な雰囲気で行っている	不穏症状の際も、必ず理由があるとし必ず「どうしました？」と理由を聞いています。利用者が否定的な言葉を発した際にも、感情が落ち着くまで寄り添う支援をしています。言葉だけではない表情などの非言語を大切にしています。食事の手伝いがしたいとの利用者の非言語の合図も職員全員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者への理解を日常にケアに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	身体面の機能低下を理解し日常生活の中で自然に維持向上するように取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングにて介護計画を作成し家族に送りお互いが一部ずつもつ	月1回の会議の中で出た内容を元に、まずは管理者が介護計画のたたき台を作り、それを職員全員に確認後、作成しています。「生活している中で何か手伝いをさせて欲しい」などの家族からの要望を聞き、反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一人一人の身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように職員間で注意したりまたその変化やサインを記録に残している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	接する介護の気づきを個別記録に記録する		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	その地域のならわしを入居者に主体になってもらいながら家庭的な雰囲気で行っている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	心身の変化や異常発生時にき気軽に相談できる医療関係を確保している	毎回同じ職員が立ち会うことで、医師や看護師との連携を取っています。利用者に変化があった時には気軽に相談ができる関係ができています。また、119番にかける際、伝えるべき項目の一覧を事務所電話横に掲示し、緊急時に利用者情報が漏れることなく医師に伝えることで適切な医療が受けられるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者の心身の変化や異常発生時に気軽に連絡をいれ対応と相談をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるように病院関係者と情報交換や相談に務めている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や入院を防ぐ努力している。またその変化やサインを記録に残している	重度化や看取りになった場合は、家族からの強い要望もあり、職員は医師とこまめに連絡を取り合い、小さな変化と細かな症状を伝えて指示を仰いでいます。医師との早急な連携でケアをしたことにより重度化せず改善した利用者もいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日々対応訓練で実践力を見につけている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に行うようにはしているが介護度を見分け区別に行うようにはしている。また、家族に月二度の災害伝言ダイヤルにて訓練をしている事をお知らせしている	避難訓練の際に障害になった箇所を職員で振り返り、改善策を考え緊急時に活かせるようにしています。月2回の伝言ダイヤルの活用を始めたことにより家族の安心にもつなげています。新たに備蓄倉庫を設置しリストを作成して管理しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	不安や支障を生じさせないようにうまく力を発揮してもらおう場面をつくっている	常に「利用者本位」であるように接することを心掛けています。身体介助を行う時には必ずひと声かけてから身体に触れることを徹底しています。排泄の際は居室やトイレの扉を必ず閉めることや、介入の職員は後ろを向いて待つなど、プライバシーに配慮した支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	行きたいところが実現するように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望にそった支援に心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個性を大切にした髪型や服装のおしゃれを支援している		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱やこぼし等にサポートを行い食欲を高め楽しく食べられるように言葉かけをしている	「利用者が食事を楽しみにしている事」や、「食事は身体の資本だ」と考え、三食全て職員の手作りで提供しています。栄養バランスはもちろんのこと、食欲増進のために盛り付けなどの「見た目」にも拘り調理をしています。残食で体調のチェックもしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量、栄養バランスを一日全体を通じておおよそ把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の声掛けをし、個々のレベルに対応している		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握しトイレの排泄の自立に向けた支援、オムツ、パット等その時どきの状態にあわせて使い分けしている	自立の人が多く、排泄確認をする際の声掛けを工夫しています。便秘の場合は薬だけに頼ることなく、食事でコントロールし、体調管理に努めています。自立排泄を維持するために下肢の筋力アップ体操を毎日続けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄記録表にて把握している。食品メニューに便秘対策を取り入れている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴前にその日の健康状態を確認し入浴の有無を確認している。くつろいだ入浴ができるように支援している。季節季節に応じ菖蒲湯ゆず湯、漢方の湯、みかん湯	利用者に「ゆっくり入っていただきたい」との気持ちより、シャワー浴の際は、足浴だけでなく、湯船の湯を何度もかけて身体が温まるようにしています。毎回同じ職員が担当することにより、入浴拒否が無くなっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	睡眠パターンを把握して夜眠れない入居者には一日の生活リズムをどうし安眠策をとっている換気にも注意している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用、用法や容量を周知して医師の指示どおりに支援して症状の変化をみる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ホーム中だけで過ごさず積極的に近隣に出かけて楽しめるような雰囲気をつくっている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	いけないような所でも協力しながら出かけるように支援している	近所を散歩しています。食事の買い出しに徒歩で一緒に出掛けることもあります。地域との繋がりや公民館で行う発表会やイベントに参加することもあります。今春も車で桜を観に行く計画も立てています。また、家族からの要望で自宅に外泊した利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理ができない場合には施設側で管理している。家族に出納を明らかにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が電話番号がわからないため、スタッフが連絡を取り話していただく、家族からの便り（年賀状など）ファイルしている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自由な暮らしを支え入居者が心理的ストレスをもたらさないようにしている	食事の時間や体操の時間を待ちきれずリビングで過ごす利用者が多くいます。長い廊下を利用者同士が相手の歩幅に合わせて一緒に歩いたり、居室に入って会話をするなど利用者同士の交流もあります。転倒防止には十分気を付けて見守っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者同士の助け合いやきもちのささえあいができるような支援を日常的に行っている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使い慣れた品物の持込みにて居心地よく過ごせるように配慮している	職員が定期的に清掃やダンスの中を整理していますが、なるべく利用者の意思を尊重し、片付けをお願いしています。利用者一人ひとりの目印となる色を決め、靴下などに目印を刺繍することで洗濯物の戻しの間違いがないように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	場面ごとに本人の力を引き出しながら支援している		

2023年度

事業所名 グループホーム MOMO

作成日： 令和6年5月6日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		申送りが曖昧で通常業務に支障を生じることが多々ある。	確実につたえる。	伝えたことを、的確にまとめて伝える。	3ヶ月
2		ホーム研修やミーティング等を行うもスタッフの考えが違うことがあり問題点となっている。	声掛けや考え方・行動もスタッフ同士同じ考えである様にする。	ホーム研修やミーティング参加を呼びかける。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月